

# 平成28年度 学校評価表

八代白百合学園高等学校

学校教育目標	<p>校訓を自分のものにしよう</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 従 順<ul style="list-style-type: none"><li>①良心の声に素直に従おうとしています。</li><li>②人の話を謙虚に聴くことができます。</li><li>③社会の正しい決まりを守ることができます。</li><li>④周囲に流されることなく、よりよいものに向かっていきます。</li><li>⑤善に反することは断る勇気を持っています。</li><li>⑥自分の役割を責任を持って果たします。</li><li>⑦物質的な豊かさの中にあっても、ぜいたくに流されないよう心がけています。</li></ul></li><li>○ 勤 勉<ul style="list-style-type: none"><li>①自分の能力をみがき、可能性の実現に努力します。</li><li>②学習の習慣が身についています。</li><li>③創造するよろこびを知っています。</li><li>④将来の目標をもち、その実現に向けて努力します。</li><li>⑤人のいやがる仕事や、目立たない仕事をいとみません。</li><li>⑥人とのかかわりを大切にして、前向きに努力します。</li><li>⑦失敗にくじけず挑戦します。</li><li>⑧健康的な生活習慣が身についています。</li><li>⑨生涯を通じて自己を高めようとしています。</li></ul></li><li>○ 愛 徳<ul style="list-style-type: none"><li>①自分と同じように他人を大切にします。</li><li>②自分の過ちを認め、謝ることができます。</li><li>③他人の過ちをゆるそうと努めます。</li><li>④自然で美しい言葉遣いや礼儀作法が身についています。</li><li>⑤女性としての特性を人々のために活かそうとしています。</li><li>⑥感謝、思いやりなどを言葉や行動で表わすことができます。</li><li>⑦人の喜びや悲しみに共感する心が育ち、相手の立場に立って考え行動することができます。</li><li>⑧人のため、社会のために何ができるかを考え、行動することができます。</li></ul></li></ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別進学コースの充実 (国公立大への合格者数の増加)</li><li>・ 基礎学力向上に粘り強く取り組む</li><li>・ 部活動の活性化 (それぞれの目標を明確にして、その達成に取り組む)</li><li>・ 特別支援教育の充実 (建学の精神を基盤にした、特別支援教育・共生教育の充実)</li></ul>

自己評価総括表

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	建学の精神の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>校訓への理解度を深める教育を推進</li> <li>修養会等独自の行事への保護者の参加を呼びかける</li> </ul>	A	集会や朝礼などの様々な場面で建学の精神に基づいた校訓についての教育を行うことができた。今後は実践に向けての取組を強化する。
		姉妹校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行時に白百合女子大学への訪問を行い同じ建学の精神に学ぶ理解を深める</li> <li>各姉妹校へのビデオレターでの交流</li> <li>各姉妹校間の直接交流を図る</li> </ul>	A	大学訪問や、姉妹校交流等で生徒にも全国にある白百合学園が共通の建学の精神のもとに学んでいるという理解が深まってきている。また、熊本地震においては姉妹校より様々な援助を受けたことで、より深い結びつきを確認することができた。
		コースの特色を生かした教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に取り組む</li> </ul>	B	各コースそれぞれの取り組みを実施することができた。担当教員間の情報共有を強化することが必要。
	開かれた学校づくり	情報の公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPの更新・充実を図る</li> <li>広報誌「八代白百合学園だより」での適切な情報発信</li> </ul>	A	HPの更新については随時適切に行うことができた。今後も正確な情報発信に努め、学校の取り組みを外部にアピールする。
		保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会総会、定例会の充実を図る</li> <li>保護者への情報発信</li> </ul>	A	メール配信システムへの登録を促進させ情報発信の頻度について充実させる。学校行事への積極的参加を促進することで教育活動に対して理解を深めてもらうよう努める。
		同窓会、後援会や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>12校園連絡会で地域学校との情報交換を積極的に行う</li> <li>情報発信の充実</li> <li>地域行事への同窓会との取り組み強化</li> </ul>	A	八代の伝統行事である妙見祭に同窓会と学校で参加し、ユネスコ文化遺産登録へ向けて学園を挙げて地域へ貢献することが出来た。また生徒による地域の小学校への学習指導や部活動の地域小中学生に向けた練習会等を行うことが出来た。今後は地域町内会との連携も強化する。
学力向上	基礎学力の向上	学びなおしの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を有効活用し基礎学力の定着を図る</li> </ul>	A	マナトレを活用し学力向上に努めた。事後活用についても改善を図る。基礎力診断テストについても有効活用できるようにする。
	授業の質の向上	授業の充実および課外の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の各種研修での研鑽を推進する</li> <li>課外授業の見直し</li> </ul>	B	教員相互の授業見学等を推進することで、組織的な授業改善を進める。また教員向け研修会や研究授業等の積極的な参加を促進し教科指導力向上に努める。

学力向上	学習習慣の確立	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の適正化による家庭学習の習慣化</li> </ul>	B	家庭学習については内容や学習時間について実態把握に努めた。チェック体制を強化し家庭学習の定着を目指す。
	クラス編成	特別進学クラス対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望対応できる学力向上を推進する</li> </ul>	A	習熟度確認のための小テストと振り返りを充実させ学力向上に努めた。個別指導や教科間の連携についても充実させる必要がある。
キャリア教育の推進	進路目標実現	インターンシップの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ参加者について2学年標準コース全員の参加を目指し進学コースでの取り組みについても検討する</li> <li>協力企業の増加を図る</li> </ul>	A	2学年の標準コース全体で取り組み、協力企業数、職種についても生徒の希望を反映することが出来たが、進学コースでの実施が実現できなかったため、今後実現できるように調整する。
		進路情報提供の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路ガイダンスの実施</li> <li>大学模擬授業の実施</li> <li>進路講演会の実施</li> <li>面談の充実</li> </ul>	B	保護者も含めての進路講演会を実施し、生徒本人だけでなく家庭においても進路意識を高めることに努めた。また進路ガイダンスを実施し進路目標について深く考える機会をつくった。面談についても情報提供の強化を図りながらより充実したものにす。
生徒指導	生活指導	制服の正しい着用	<ul style="list-style-type: none"> <li>整容指導を徹底する</li> </ul>	A	ネット・スマホの安全教室やDV未然防止教育を実施し専門家による指導を受けることでより深い理解ができるよう努めた。
		携帯電話の正しい利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者教育やマナー講座を通じて携帯電話の使用についての理解を深める</li> </ul>	A	
		DV未然防止教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>DV未然防止教室の開催</li> </ul>	A	
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時の街頭指導を行う</li> <li>交通安全指導での自転車交通講習</li> </ul>	B	登校時危険な進路の利用を避けさせる等、安全意識を高めた。今後は学校周辺のハザードマップを作成し周辺地域の安全管理についても強化を図る。
		建学の精神に基づいた生徒指導の取組強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教教育、人間教育の観点から生徒指導を行う</li> </ul>	B	単なる規範意識の向上だけでなく、精神性・道徳性の向上を目指す。
生徒指導	ボランティア活動の推進	<p>奉仕活動への理解を深める</p> <p>心豊かな生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動への積極参加を促す</li> <li>各種支援施設との交流</li> <li>校内献金活動を通して他者への慈愛の精神の醸成を図る</li> </ul>	A	支援学校や支援施設へのボランティアを通じその意義を学ぶことが出来た。今年度は特に熊本地震被災者へのボランティア活動にも多くの生徒が参加した。今後は周辺地域への奉仕活動を推進したい。
	特別支援教育	特別支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの有効活用及び関係機関との連携強化</li> <li>個別の教育指導・支援計画の策定</li> <li>ケース会議の充実</li> </ul>	A	スクールソーシャルワーカーと連携し、ケース会議を充実させ対応充実に努めた。スクールカウンセラー制度の周知を図り、多くの生徒が利用しやすい環境を目指す。また外部機関との連携も強化し支援体制の充実を図る。

人権教育の推進	人権意識の向上	人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権問題についての正しい理解を深める</li> <li>人権講演の実施</li> </ul>	A	宗教教育を通じて人のため社会のために自分が何をできるか考えることを通じ人権意識の高揚を図った。
	いじめ防止	未然防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止基本方針の策定</li> <li>個人面談の実施</li> <li>いじめ実態把握調査の実施</li> </ul>	A	教員間の連携に努める。いじめについてはないと考えるのではなく起こっているかもしれないとの認識で実態把握や日頃の状況を注意して観察する。
特別活動	国際交流の推進	韓国姉妹校との交流 その他の国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の交流を展開する</li> <li>「総合的な学習」での韓国語講座の実施</li> <li>英語圏の学校との交流</li> </ul>	B	熊本地震の発生により韓国姉妹校との交流事業は中止となったが、台湾より私立高校を迎え交流を行うことができた。英語圏との国際交流についても推進する。
	各種行事	宗教行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>修養会を行いカトリックの理念を通じた人格形成を目指す</li> <li>本校の守護の聖人である聖パウロの殉教の祝日に行う「聖パウロ音楽祭」を同窓会、幼稚園も参加して学園全体で行う</li> </ul>	B	「聖パウロ音楽祭」は地震の影響もあったが例年通り実施することができた。各種ミサ等の宗教行事に生徒が主体的に参加できるよう学校全体で取り組む。
	部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国レベルの部活動への活動環境整備</li> <li>文化系部活動合同でスプリングコンサートを開催し地域へ向けた活動発表を行う</li> </ul>	A	各種大会で活躍することができた。文科系部活動に関しても地域での各種展示や小学校へのスクールコンサートを行い地域貢献の活動が出来た。環境整備だけでなくこうした活動を充実させることで生徒たちの心身の成長も図る。